

B型肝炎ワクチン接種についての説明書

B型肝炎ワクチンの予防接種は、法律に基づいて受ける定期接種です。この説明書をよく読んで理解し、十分に医師から説明を受けたうえで予防接種を受けてください。

〔接種対象年齢〕

接種時点で大牟田市の住民である1歳未満の者
＜標準的な接種年齢：生後2か月～9か月＞

※B型肝炎ウイルス陽性の母親から生まれた小児は、母子感染予防事業の対象となるため、定期接種としてではなく、健康保険を用いて接種します。（定期接種の対象から外れます）

〔接種スケジュール〕

27日以上の間隔で2回接種した後、1回目の接種から139日以上の間隔をおいて1回1回あたり0.25mlを皮下に接種します。

1 予防する病気

◆B型肝炎

B型肝炎ウイルスの感染によって、肝臓の細胞が壊れたり、その影響で肝臓の働きが悪くなる病気です。一過性の感染で終わる場合とそのまま感染している状態が続いてしまう持続感染の2通りがあります。持続感染になった人の85～90%の人は無症状で経過しますが、10～15%の人は慢性肝臓病（慢性肝炎、肝硬変、肝臓がん）へ進行します。出世時や乳幼児期での感染は、症状が無い状態で経過することが多いですが、持続感染になりやすいという特徴があります。

2 ワクチンの有効性

乳幼児期に接種すると、ほぼすべての赤ちゃんが免疫を獲得することができ、3回の接種後の効果は、20年以上続くといわれていますが、免疫の獲得や持続期間は個人差があります。

3 ワクチンの副反応

主な副反応は、倦怠感、頭痛、局所の腫脹、発赤、疼痛等ですが、一般的には重大なものは認められません。

4 予防接種を受ける前に

（1）一般的注意

気にかかることやわからないことがあれば、予防接種をうける前に担当の医師に質問しましょう。予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。保護者が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

（2）予防接種を受けることができない方

- ア. 明らかに発熱している方（通常は37.5℃以上の場合）
- イ. 重い急性疾患にかかっている方
- ウ. このワクチンの成分によってアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）をおこしたことがある方
- エ. 免疫機能に異常のある疾患を有する者および免疫抑制をきたす治療を受けている方
- オ. その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方

（3）予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない方

- ア. 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- イ. 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方
- ウ. 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- エ. 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- オ. このワクチンに対してアレルギーをおこすおそれのある方
- カ. 妊婦または妊娠している可能性のある女性

(4) 接種を受けた後の注意事項

- ア. 接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
- イ. 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ウ. 接種後1週間は体調に注意しましょう。また、接種後、接種局所の異常反応や体調の変化を訴える場合は速やかに医師にご相談ください。
- エ. このワクチンの接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、6日間以上の間隔をあける必要があります。
- オ. 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- カ. 接種当日は激しい運動は避けてください。

5 副反応が起こった場合

予防接種後、まれに副反応が起こることがあります。予防接種と同時に、ほかの病気がたまたま重なって現れることもあります。予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、体調変化が現れた場合は、速やかに接種した医師（医療機関）の診察を受けてください。予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づき、国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。

<問合せ>

大牟田市保健福祉部保健衛生課 電話:0944-41-2669